

団体名 愛憐花（あいにんか）（下関市）

代表者名	上田 理美	団体の目的
構成員数	10人	・人と命をいっくしみ、人の痛みを理解し何かをしてあげたいという心を大切に、難病、障がい者、高齢者、子ども、健常者全ての人々が支え合える社会づくり、地域づくりを目指す
設立	H28年7月	
問い合わせ先	rieka_0818@yahoo.co.jp	

事業名 癒してノーマライゼーション

- 事業の目的**
- 難病や障がい者が社会生活を行う上で、「こまった実例」を紹介し、ノーマライゼーションの意識を高めてもらう
 - 若者の活動成果の発表の場を作る
 - 当会の活動について広く啓発・周知する

- 事業の内容**
- ノーマライゼーションの啓発、難病患者や障がい者等の活躍の場として、障がい者の作品展と地元の若者による三味線演奏会を下関市の東行庵で、6月に開催する予定としていたが、コロナ感染症拡大により中止
 - オンラインでの配信に切り替え、障害や福祉に関する情報を配信されているyoutubeチャンネルの「SMALL STEP TV」で、活動の様子や作品、演奏等を全国に発信

- 事業の成果**
- 結果的に対面でのイベントはできなかったが、障がいのある人もない人にも広く動画を通してノーマライゼーションを啓発できた
 - 助成事業を行う中で、同じ下関地域で活動する団体との交流が生まれ、活動の意欲や活動の幅が広がった
 - 次回はぜひ対面で作品展を行い、それ以外にも車いす講習会等ノーマライゼーションの啓発につながる活動を行っていきたい

活動の写真



作成・配信された youtube 動画



演奏や作品づくりを通して、多くの人にノーマライゼーションを呼び掛ける内容となっています

団体名 NPO法人シンフォニーネット (下関市)

代表者名	岸田 あすか	団体の目的
構成員数	30人	・自閉症・発達障がいを抱えた方とその家族、関係者や地域社会に対して、適切な療育と正しい知識の啓発、地域生活の場の提供を行い、自閉症・発達障がいを抱えた方より良い成長と幸福な人生の創造に寄与する
設立	H11年9月	
問い合わせ先	TEL 083-250-9140 (事務局)	

事業名 新地町だんらん食堂1・2・3

事業の目的 ○地域の共働きやひとり親世帯、独居高齢者、障がい者等みなさんと月に一度ゆっくりとごはんを食べ、寛いでもらう時間を提供する

事業の内容 ○毎月第3金曜日に当法人事業所にて「だんらん弁当」の配布を実施(毎回電話で予約を受け付け120~130食を配布:年12回開催)
※当初は食事を共にすることを予定していたが、コロナ感染症拡大に伴い弁当配布に切り替え
○3月~5月の緊急休校に伴い、子ども弁当を毎日50食追加で配布

事業の成果 ○当会の会員と地域の方との協働や交流が生まれ、障がいに対するマイナスなイメージをお互いに払拭することができた。会員の自信にもつながっており、活動を知った地元の企業から就職の話もいただいた
○「お互い様」と言える地域づくりの一助となった
○県内や市内のフードバンクや起業との連携が見えてきたので、コロナ禍の終息が見えない中ではあるが今後も活動を継続していきたい

活動現場レポート 新地町だんらん食堂1・2・3 (11月19日/mimihanaカフェ)

- ◆ この日は、会が運営しているカフェにて、「新地町だんらん食堂」の弁当配布が行われました。
- ◆ 値段は大人300円、子ども100円で設定。コロナ感染症拡大以降、食事の提供ではなくなりましたが、「会員手作り」というところは変わらず、栄養バランスもとれ、色鮮やかな美味しそうな弁当となっていました。内容も、子ども用と大人用では少し違い、それぞれ別にデザートやサラダがついていました。今回は、予め予約を受けた100食を準備。
- ◆ 弁当を受け取りに来る方は大人の方が多く(それぞれの家庭のお父さん、お母さんなど)独居高齢者、発達障がいを持っている方もおられ、みなさん笑顔で受け取っておられました。
- ◆ 久しぶりに顔を合わせた方と、受け渡し時に話が弾むことも多く、「だんらん食堂」が地域に定着し受け入れられている様子が伺えました。



弁当配布の様子

団体名 公益社団法人認知症の人と家族の会山口県支部 (山口市)

代表者名	川井 元晴	団体の目的
構成員数	179人	・認知症に関する正しい知識の普及、その理解の推進、認知症の人と家族に対する相談及び指導、支援や福祉の増進に寄与する
設立	H23年6月	
問い合わせ先	TEL 083-925-3731 (事務局)	

事業名 認知症の人と家族への援助をすすめる第37回全国研究集会in山口

事業の目的 ○超高齢化社会に突入した日本で700万人に達すると推計される認知症高齢者をめぐって、様々な施策や治療方法が日々検討されており、また、コロナ感染症の拡大など近年目まぐるしく状況がわりつつある。本人、家族にとって明るい時代を「ひらく（開く・拓く・啓く）」ための議論を行う

事業の内容 ○第37回全国研究集会 in 山口 ～「ひらく」～新時代において を開催
10月31日(日) 10:00~15:30/KDDI 維新ホール(会場とオンライン参加によるハイブリット形式)
「新時代に希望を抱いて、認知症とともに今を生きる」と題した山口県立こころの医療センター院長の兼行浩史氏による基調講演のほか、体験・実践発表やシンポジウム等を開催。参加者704人

事業の成果

- 認知症の医学的・医療的な側面だけでなく、社会的な側面を含めた現状と課題について分かりやすく学ぶことができ、認知症の人の考えや実情について広く発信することができた
- ハイブリット形式での開催により、県内外から多くの参加があったほか、学生を含めた様々な職種からの支援や協力を得ることができた
- 山口県の認知症本人や家族の活動や思いを県内はもとより、全国へ発信する最良の機会となった。これらの経験や人的交流は今後の活動を一層まい進する原動力になると実感している

活動現場レポート



講演や体験発表の様子は youtube で配信されています

団体名 山口の朗読屋さん (山口市)

代表者名	林 伸一	団体の目的
構成員数	10人	・児童館や施設等への朗読訪問を通して青少年や高齢者の明るく、文化的な生活を支援する ・日本の昔話や世界の物語を味わうことにより、心が豊かになり心身ともに健康になることを目指す
設立	H29年4月	
問い合わせ先	Tel 090-6415-8203	

事業名 アーサー・ビナードの作品群によるコミュニケーション活性化事業

事業の目的

- 他者とコミュニケーションをとることの苦手意識を克服するために、人前で話すことを前提とした朗読会を開催し、参加者にも朗読に挑戦してもらう
- 英語と日本語で書かれた絵本などを素材にして英語に親しみ、人前で朗読できるまで段階的に練習する機会をつくる

事業の内容

- 「アーサー・ビナード」の研究会（年間8回）
 翻訳絵本を題材に日本語・英語朗読と作品の内容について語り合った
- 施設等への朗読訪問
 山口児童館、下松老人福祉会館、吉敷地域交流センター、ハートホーム平川等で絵本朗読
- アーサー・ビナードを囲む朗読+お話し会
 8月15日（日）13:00~16:00 / 山口市民館小ホール / 参加者 172人
 アーサー・ビナードの翻訳絵本を題材に、アーサー氏本人を招いて作品の内容や世界観についてトーク、意見交換

事業の成果

- 翻訳絵本の朗読のスキルアップを図ることができた
- 参加者や観客が朗読を体験することができるワークショップの機会を設けたり、ギターや弾き語りやオカリナ演奏とのコラボレーションなど新しい試みを行ったりし、朗読の可能性と発展性について実感できた

活動現場レポート アーサー・ビナードを囲む朗読+お話し会（8月15日 / 山口市民館）

- ◆ この日は、英語の絵本を数多く日本語に訳し出版されている詩人で翻訳家のアーサー・ビナードさんを講師に迎え、朗読とお話し会が開催されました。
- ◆ まずはエリック・カール等の有名作品を当会のメンバーが朗読し、その後、翻訳担当したアーサー氏から、それぞれの作品の解説やどのような点に留意しながら翻訳に取り組んだか等について語られました。
- ◆ 時折ユーモアを交えながら絵本の世界や言葉の力について分かりやすく説明されており、参加者も作品の世界に引き込まれ、大変熱心に聴講されていました。



絵本翻訳の裏側をユーモアたっぷりに話されました

団体名 朗読Junな心の会 (下松市)

代表者名	朗読ソムリエ 今治 淳子	団体の目的 ・朗読活動を通じて子どもから大人までの人生を豊かにし、ひいては地域社会の教育・福祉の向上に寄与する
構成員数	15人	
設立	H22年5月	
問い合わせ先	山口きらめき財団へ	

事業名 「朗読でコロナ禍をいきいき人生へ！」プログラム

事業の目的 ○朗読によって人間力を回復し、自らの課題を解決することでコロナ禍を明るくいきるための知的財産を享受してもらう

事業の内容

- 勉強会の開催（5月11日／ほしらんどくだまつ／参加者20人）
大会や発表会の準備のため、古事記の成り立ちと日本人の心、それを受け継ぐ神楽について勉強。発表会で朗読する内容についての理解を深めた
- 朗読大会の開催（10月24日／ほしらんどくだまつ／参加者20人）
小学生2名を含む会員16名が「古事記・神楽」の内容を理解し朗読発表を行った（大会の様子は地域のケーブルテレビで放映）
- 朗読発表会の開催（11月24日／スターピアくだまつ／参加者400人）
下松市の市民文化祭の中で、「古事記・神楽」を会員17名で朗読

事業の成果

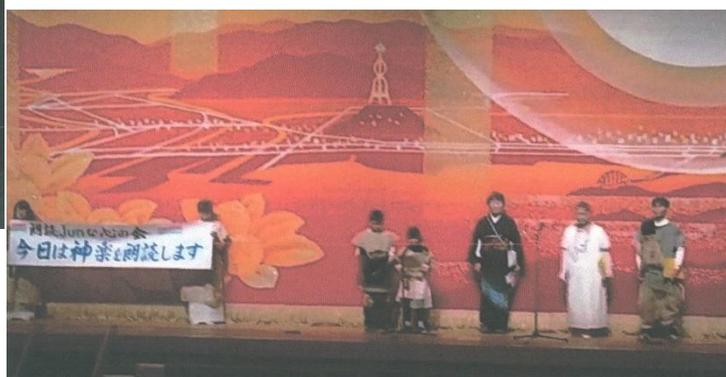
- 「古事記」や「神楽」の理解を深めるとともに、伝わりやすい話し方やアクセント・発音などについてより深く学ぶことができた
- 今後、コロナ禍により家中で過ごすことが増え、健康への関心が高まること予想される。精神的・肉体的な健康づくりのため、朗読文化に関心をもっていただけるよう今後も引き続き活動していきたい
- 「with コロナの朗読会」の在り方についても模索していきたい

活動写真



衣装も古事記を意識して

朗読大会、朗読発表会では神楽をモチーフに古事記を朗読



団体名 岩国夢見プロジェクト (岩国市)

代表者名	石川 忠祐	団体の目的
構成員数	8人	・岩国市及び周辺地域への社会貢献と地域活性化を目指し、活動への志と夢に共感できる者同士の集結をもって、地域の健全な発展に貢献する
設立	R元年9月	
問い合わせ先	TEL 090-7597-9098	

事業名 感性豊かな人間性を育む社会教育活動

事業の目的

○幾多の苦難を乗り越えてきた著名人の人生観や体験談を青少年のみなさんに聞いていただくことで、自分の心情に置き換え、心の豊かさと命の尊さ、逆境をはねのける強さを感じ取ってもらう

事業の内容

○盲目のヨットマン岩本光弘氏(米国サンディエゴ州在住)を講師として招いて講演会を計画。実施に向けて準備(チラシの作成、関係機関との調整等)を進めていたが、コロナの感染拡大により中止

事業の成果

- 本事業は最終的に講演会の実施、または中学生と岩本氏の心の育みには至らなかったが、取組を進める中で「感性豊かな人間性」を育むことの必要性は改めて認識できた
- 講演会開催に向けて企画調整、準備を進める中でスタッフのスキルアップにつながった
- 今後は講演会に限定せず、より視野を広げた発想で活動を継続していきたい

活動写真



Youtube 配信「手洗いうがい歌」

会では、助成事業以外にも、コロナ感染症の拡大を受けて「手洗いうがい歌」を制作し、動画を撮影してyoutube にアップする事業も行われています



今回の講演会は残念ながら中止となりましたが、こちらのポスターを作成され、啓発活動が行われました

団体名 赤間関街道中道筋連絡協議会 (萩市)

代表者名	内村 幹雄	団体の目的
構成員数	116人	・下関市から萩市までの歴史文化遺産である「赤間関街道中道筋」の全線を沿道3市の民間5団体が連携して、保護・保存・整備・活用する活動を行い、その価値を地域や後世に広め伝えることにより地域づくりに寄与する
設立	H29年1月	
問い合わせ先	c-akiragi@city.hagi.lg.jp	

事業名 赤間関街道中道筋ウォークによるにぎわいづくり事業

- 事業の目的**
- 下関から萩までの歴史・文化遺産である赤間関街道中道筋全線を保護・保存・活用して後世に伝える
 - 多くの方が沿線地域の歴史や文化にふれあいながらウォーキングを楽しむことで地域の賑わいと活力を促す

- 事業の内容**
- 下関市吉田宿から萩市明木宿までの約53kmの道程を5つのステージに区切ってリレーウォークを実施
 - 第1ステージ（広谷～上領八幡宮 13.3km／10月17日／参加者48人）
 - 第2ステージ（上領八幡宮～植松 9.0km／10月24日／50人）
 - 第3ステージ（植松～東行庵 10.7km／11月7日／51人）
 - 第4ステージ（一ツ橋～広谷 11.0km／11月21日／50人）
 - 第5ステージ（一ツ橋～明木宿 8.8km／12月5日／51人）
 - ・参加者は2グループに分かれてそれぞれガイド1人を配置し、史跡に立ち寄って説明を行った。全ステージを完歩された方には認定書を交付

- 事業の成果**
- 多くの方に参加していただき、当協議会の活動についても広くPRすることができた
 - この活動をきっかけに、美祢市のコミュニティスクールとの連携が生まれた。次世代を担う子ども達に街道の歴史など、地元の良さについてもっと関心をもってもらえることができた
 - 今後はこの活動を地域に根付く取組として継続的に実施していくため、他の旧街道の活動団体や地域リーダーとの交流を深めて連携した取組につなげていきたい

活動写真



ガイドの案内で地域の歴史を学びながらウォーク

団体名 NPO法人降松平和の里ハイキングの会 (下松市)

代表者名	永田 憲男	団体の目的
構成員数	80人	・健康づくりと文化遺産を守り活用することで、地域社会の健全な発展及びまちづくり、観光など地域の活性化に寄与する
設立	H26年9月	
問い合わせ先	TEL 0833-43-6035	

事業名 スローハイキング大会in中宮兼スロージョギング特別講習会

- 事業の目的**
- 市民の健康づくりに役立てる
 - 日本の伝統文化を保全・継承する活動につなげる
 - 中宮山ハイキングコースを観光資源に導く

- 事業の内容**
- ハイキングコースの整備
年間をとおして中宮ハイキングコースを歩きやすいコースに整備する活動を展開。また、2月には歴史探訪の団体等にも参加いただいてコースに桜の植樹を行い、地域の文化遺産への関心を高めていただいた
 - スローハイキング大会 in 中宮兼スロージョギング特別講習会の開催
2月27日(日) / 吉原児童遊園 / 約40人参加
日本スロージョギング協会から講師を招へいしてスロージョギングのやり方を学び、ハイキングコースを活用した多世代にわたる健康づくりを実施

- 事業の成果**
- この活動を続けることにより、少しずつ中宮を散歩やウォーキングされる方が増えており、念願の小中学生の遠足も始まった。
今後もあらゆるアイデアを出して可能な整備を行い、健康づくりと文化遺産の保全を進めていきたい

活動写真



講師のアドバイスを受けながらスロージョギングを実施

団体名 一般社団法人岩国青年会議所 (岩国市)

代表者名	今西 桃太郎	団体の目的
構成員数	22人	・地域社会及び国家の発展を図り、国際理解を深め、世界の繁栄と平和に寄与する
設立	S50年3月	
問い合わせ先	https://iwakunijc.com/	

事業名 IWAKUNI FUTURE 2021

- 事業の目的**
- 若者が希望を持って未来を描くことができる社会にするため、自分たちにとって理想的なまちを考え、当事者意識を高める
 - 若きコミュニティリーダーを育み、市民を動かし地域や社会をより良くする

- 事業の内容**
- 岩国市内7校の高校生が岩国市の現状や課題などについて考え、解決策のアイデアを披露する発表会を開催
 - 第1部 プランニング（自己紹介） 5月16日/動画配信
 - 第2部 ファーストプレゼンテーション（予行演習） 5月30日/動画配信
 - 第3部 メインプレゼンテーション（発表会） 6月20日/オンライン生配信
 - 市長を含む4人が審査を実施し、良いアイデアは今後市の協力を得て、岩国市の次期総合計画に反映させていく予定

- 事業の成果**
- 高校生が積極的にまちづくりに関わる機会を作ったことで、若きコミュニティリーダーを育むことができた
 - 若者の社会参加を促し、若者の声を市政に反映できた
 - 地域資源の掘り起こし、地域課題の解決、若者の定住やUJIターンの支援につなげることができた
 - 市民一人ひとりが地域課題に向き合い、課題解決となるきっかけ作りができた

活動写真



高校生による地域課題に密着したプレゼン
動画で配信されました

団体名 まちの住民館「あかり」 (岩国市)

代表者名	大久保 妙子	団体の目的
構成員数	5人	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが自分らしく、ほっと出来る居場所であることを基本とし、共生社会の実現を目指し、地域社会に根差した活動を行い、地域コミュニティを構築する ・市民活動団体のサポートや団体をつなぎ、更なる活動の活性化を図る
設立	H30年4月	
問い合わせ先	TEL 050-5329-3197	

事業名

にぎわい交流づくり～高齢者から子どもまで全世代の「生活支援型コミュニティ事業」と障害者の「地域参加事業」

事業の目的

- 「まちの住民館あかり」をイベントやワークショップ等で活用するコミュニティスペースとして地域住民に提供する
- 誰もがゆるく集まり、繋がれるような「地域の居場所」を作るため、体験ワークショップや講座を開催する

事業の内容

- 第1回 つながりをつくるための動画を作成し発信してみよう！
副代表がきらめき財団県民活動団体交流会で情報発信について学んだ内容をスタッフに共有する研修会
- 第2回 まちの住民館あかりを「さをり織り」で飾ろう！音楽で楽しもう！
3月5日(土) 12:00～15:00/まちの住民館「あかり」
さをり織り作品の展示、さをり織り体験(コロナ感染拡大防止のため、「音楽で楽しもう」は中止)
- アロマ香る癒しのさをり織り茶話会(年間14回/まちの住民館「あかり」)
スタッフが作成したアロマスプレーの配布

事業の成果

- イベントを通して「まちの住民館あかり」が発展し、地域に定着してきた
- 「さをり織り」の活動を通じて、高齢者や障がい者等の社会参加や生活向上に貢献できた。今後活動をとおしてさらなる社会貢献につなげていきたい

活動写真



楽しく、ほっと一息つける居場所を提供されています

団体名 宇津賀地区まちづくり協議会 (長門市)

代表者名	埜村 浩	団体の目的
構成員数	37人	・まちづくりに対する意識の向上と積極的な行動を行い、住民相互の連帯と協働により、宇津賀地区の振興、発展及び活性化に寄与する
設立	H25年8月	
問い合わせ先	TEL 090-7120-5310	

事業名 繁茂竹林消滅事業

- 事業の目的**
- 繁茂竹林を消滅できるか実証試験を行い、試験データを同様の問題で悩む地域へフィードバックする
 - 伐採した竹を製品化して販売する

- 事業の内容**
- 竹林消滅のための実証実験エリアの選定 (長門市油谷後畑の竹林)
 - 若竹の処理
4月～5月頃に生えてくるタケノコを処理
 - 竹伐採と製品化
 - ①整備 5月～7月/9月～1月/延べ約40人
倒れた竹の撤去、枯れた竹の償却、青竹のカット、進入路の草刈り
 - ②製品化
竹炭と竹酢液原液を製作
 - 成果の検証
 - ①伐採においては、タケノコは労力を必要としない
 - ②整備が進むと作業がしやすくなり、整備性も格段に良くなる
 - ③検証試験を本格的に始められる環境が整った
 - ④タケノコを1本も生やさないことが可能であることが証明できた

- 事業の成果**
- タケノコを倒すことは成長した竹伐採に比べて楽であり、定期的に巡回すれば全て倒すことができた
 - 「竹林は消滅可能である」ことを実証できた
 - 活動状況を通信として住民に知らせするとともに SNS にも掲載し、広く周知していく予定
 - 本事業は数年継続して初めて結果が得られると考えられ、今後も引き続き検証を続けていきたい

活動現場レポート



地道な竹林整備作業の様子



竹炭を活用して新商品開発

団体名 琴石グリーン村 (柳井市)

代表者名	難波 勝文	団体の目的
構成員数	35人	・琴石山麓の動植物の生態に関する調査研究・保護、登山道・林道の保全整備、里山の再生、耕作放棄地を活用しての営農、歴史や民族に関する調査研究などの活動を通じて豊かなコミュニティづくりと地域の活性化に寄与する
設立	H29年4月	
問い合わせ先	TEL 090-3889-8797	

事業名 柳井市のシンボル「琴石山」を核にした地域活性化事業

事業の目的 ○柳井市のシンボル琴石山にスポットをあて、①信仰、②観光、③健康をキャッチフレーズに、①住民の心に寄り添い、②人を呼び込み、③健康で元気な活動に取り組み地域の振興に寄与する

事業の内容

- 「御大師山公園」整備
5月～7月の間に6回／参加者延べ48人
作業道、参道の整備作業、落慶法要
- 琴石古道「七つ星巡り」の整備
4月～3月の間に37回／参加者延べ125人
古道整備、草刈、竹伐採、学習広場の整地等
- きのこ狩りと琴石山麓の自然に親しむ集い
10月30日(土) 9:00～13:40 / 正福寺の森公園／参加者49人
里山散策、きのこ観察会、森林環境学習会等
- 神楽を楽しむ会
11月14日(日) 11:30～16:00 / 春日神社／参加者100人
岩見神楽(恵比須、八岐大蛇、鍾馗)の奉納、獅子舞、マジックショー
- 開村記念の会
2月11日(土・祝) 10:00～14:00 / 正福寺の森公園／参加者60人
琴石山登山者への甘酒他の接待

事業の成果

- 近年のコロナ禍でアウトドア志向が高まったこともあり、登山客が増え、古道の整備は喜ばれた
- きのこ狩りの自然体験により、ふる里を愛し、守る心を育てる機会になった

活動現場レポート 神楽を楽しむ会(11月4日/春日神社)

- ◆ 春日神社は、天照大神に祝詞を奏上した神アメノコヤネを祀っており、石見神楽の奉納は縁があります。
- ◆ 石見神楽「鍾馗」「恵比須」「八岐大蛇」の3つの演目が披露されました。野外に設置された舞台は、客席と近く、豪華な衣装をまとった迫力のある演技に皆さん真剣に鑑賞されていました。
- ◆ 演目ごとの準備の間には、「獅子舞」と「マジックショー」が行われ、客席とのやり取りもあり、大変盛り上がりました。

迫力ある神楽演舞



獅子舞に子ども達は興味津々

団体名 **せとうちブループロジェクト実行委員会** (周南市)

代表者名	渡辺 裕子	団体の目的
構成員数	10人	・地域の環境共生を文化・スポーツ・産業の観点から捉えて地域環境の新たな価値を創出するとともに、海の楽しさ素晴らしさを全国に発信していく
設立	R2年10月	
問い合わせ先	TEL 090-1187-7263	

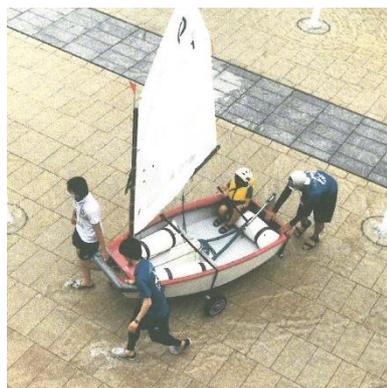
事業名 **せとうちブループロジェクト (地域環境共生事業)**

- 事業の目的**
- 海の世界を文化・スポーツ・産業の観点から捉えて海の世界啓発を行う
 - 自分たちが暮らす地域の海に興味を持つことで地域環境共生の新たな価値を創出し、「海と人のとのつながり」「地域と人のとのつながり」「人と人のとのつながり」を山口県から全国へ発信する

- 事業の内容**
- せとうちブループロジェクト2021 の開催
7月3・4日 10:00~16:00 / 徳山駅前図書館・駅前賑わい交流施設・北口駅前広場 / 参加者約500人
ランドセーリング、徳山会場保安部パネル展示、海の世界、セーリング競技、山口県出身選手紹介、VRセーリング体験、デジタル水族館、海の世界でアロマディフューザー作り、空きペットボトルを使った科学教室、海と日本プロジェクトオリジナルアニメ上映、e-セーリング体験等様々な企画を実施
 - 親子で学べる環境ワークショップ
11月28日(日) 10:00~15:00 / 瑠璃の郷 / 参加者15人(感染対策のため少人数で実施)
シーグラスを使ったアクセサリ作り体験

- 事業の成果**
- 自分たちの興味のある身近なところから「地域環境」を考えていただくきっかけを作れた
 - SNSの登録者が増え、「山口県発の世界環境啓発」の大きな動きのスタートアップができた
 - 今後も本プロジェクトを県内の企業や学校、地域子ども会など、地域社会全体と連携して実施していきたい

活動写真



ランドセーリングの様子



VRセーリング体験



ボランティアとして関わった
大学生とともに

がんどう
団体名 頑童の会 (山陽小野田市)

代表者名	久保田 宏司	団体の目的
構成員数	22人	・愛するふるさとを守り次世代に繋げるため、地域交流の輪を広げ、一緒に汗を流せる仲間を作り、自分たちの手で植生・津布田地域を安全で快適な魅力ある街づくりを推進する
設立	H30年4月	
問い合わせ先	TEL 090-1355-1360	

事業名 本州最西端の“糸根の松原”と日本最古機のプラネタリウムを活用した活性化事業

- 事業の目的**
- 地域資源を次世代に残すため、地域の魅力を再認識するとともに、地域活性化につなげる
 - 糸根の松原にある日本で稼働している中で一番古いプラネタリウムが解体されるため、地域の歴史遺産として思い出に残す

- 事業の内容**
- はぶフェス2021 の開催
 10月16日(土)10:00~16:00/糸根公園・青年の家/参加者約500人
 プラネタリウムミノルタS10上演(3回)、ライブイベント、竹細工(手作り竹とんぼ・水鉄砲・竹馬ほか)、折り紙、お手玉、植生産野菜の直売、ハンドメイドフリーマーケット(8店舗)、JAL(日本航空)紙ヒコーキ飛ばし等、地域の団体と連携しながら幅広い企画を実施

- 事業の成果**
- 新しい魅力を市内外に発信でき、今後の交流人口の増加のきっかけづくりになった
 - 地域の高齢者が積極的に参加し、地域が一体となってイベントを開催できた
 - 幅広い年齢層の交流により、地域全体が活性化活動へ取り組むことの関心を高めることができ、次世代を担う若年層へ、地域の持つ可能性を提示できた

活動現場レポート はぶフェス2021(10月16日/糸根公園・青年の家)

- ◆当日は、プラネタリウム上映会とマルシェを組み合わせたイベントが行われました。
- ◆青年の家・天文館に設置されている日本最古級の投影機「ミノルタプラネタリウムMS-10」は、現在国内で稼働している中では最古級で、国立科学博物館の「重要科学技術史資料(未来技術遺産)」に登録されました。
- ◆その投影機での上映会には多くの親子連れが訪れたため、入場者数を増やし、2回の上映予定を3回にして対応されました。
- ◆地元産品や雑貨販売などをする「マルシェ」のほか、軽食やデザートを販売するキッチンカーも来場していました。また、JALが協力する「紙ヒコーキ飛ばし体験」や「ステージイベント」も行われ、会場を賑わせていました。



プラネタリウムの歴史等の展示



雨模様の天気でしたが多くの人が参加

団体名 縄地ヶ鼻公園振興会 (山陽小野田市)

代表者名	藤井 征男	団体の目的
構成員数	60人	・自然豊かな縄地ヶ鼻公園の利活用を推進し、併せて利用者の心が和み、心身のリフレッシュができる場所を提供することにより、地域での交流推進や活性化を図る
設立	H20年5月	
問い合わせ先	TEL 090-3178-8719	

事業名 縄地ヶ鼻公園を活用した地域にぎわい創出事業第III期

- 事業の目的**
- 公園内に水仙を植栽して水仙公園化を進め、多くの地域住民が訪問して交流できる場所づくりを行い、地域の交流を推進する
 - 子どもたちが四季を通じて楽しめるような仕掛けを充実させ、気軽に集まり、楽しく遊ぶことができる場所を作る

- 事業の内容**
- 「カブトムシの里」整備事業 ※実施場所は縄地ヶ鼻公園内
4月25日(日)会員15人で実施
他地域で確保した幼虫を飼育ケージ内で飼育し後日成虫を放虫
 - 「水仙で来園者を呼び込もう！」作戦
10月～2月の間、4回にわたり公園法面に児童や地域住民などが約3,500個の水仙の球根を植栽／参加者延べ60人
 - 環境保全
7月～2月の間、6回にわたり、地域住民などとともに、縄地ヶ鼻海岸の砂浜や岩礁への漂着物を回収したり、公園の水仙花壇の除草、植栽による整備を行った／参加者延べ290人
 - 水仙まつりの俳句大会の優秀句の立札設置（※水仙まつりについては、コロナ感染症の拡大により中止）

- 事業の成果**
- 報道機関で取り上げられる機会が増え、市内外からの来園者が増えた
 - 俳句大会では地元以外の児童の投稿が多く、今後地元地域外からの来園者が期待できる。市内でもメジャーな公園となり交流人口の増加につなげたい

活動現場レポート 「水仙で来園者を呼び込もう！」作戦（10月28日／縄地ヶ鼻公園）

- ◆ 高泊小学校6年生38人と一緒に、水仙の球根の植栽を行いました。事前に植えやすいよう、会の方で粗方準備を進めておられたようです。
- ◆ 小学生は、会員から「球根の植え方や注意すること」などの説明を受けた後、球根の植え付けを行うグループと、植え付けた球根に土を被せるグループに分かれ、指導を受けながら作業しました。会員と小学生との交流もあり、とても楽しく作業もはかどった様子でした。
- ◆ 密になることを避けるため少人数でしたが、植栽は順調に進み、予定どおり終了。最後に児童から感謝とお礼の挨拶があり、会員もうれしそうにその様子を見守っていました。



球根植え付け作業の様子

団体名 花の咲く夕日の里づくりの会 (周防大島町)

代表者名	木村 庄吉	団体の目的
構成員数	27人	・周防大島町外入地域において、耕作放棄地の再生や景観環境の整備、歴史の掘り起こしによる次世代への継承等により、町内外の多くの人に地域を知ってもらい、地域の将来の発展に寄与する
設立	H26年4月	
問い合わせ先	TEL 090-4443-2951	

事業名 とのにゅう「希望の丘」花木植栽事業

事業の目的 ○外入集落から望める丘を「希望の丘」と名付け、将来の荒廃防止と、地域の憩いの場所とすることで、外入地区を訪れる方の増加が期待でき、地域の活性化を図る

事業の内容

- アサギマダラ観察月間事業
10月1日～30日／外入アサギマダラ園／期間中の来場者約3,000人
アサギマダラが好む「フジバカマ」を年間を通して管理し、来場者へアサギマダラの説明や鑑賞ポイントへの案内、飛来コースの展示等を実施
- エコツアーの開催（城山～アサギマダラ観察）
10月22日（金）／参加者5人
下田地区史跡を巡るハイキングエコツアー
- 写真展開催
12月～2月／山田神社拝殿
郷土の偉人宮本常一の写真や地域住民が持っている古写真、会の活動状況紹介等の展示を行った
- 定期整備 毎月第2水曜日、第3土曜日／磯兼屋敷跡、「希望の丘」等
ホテルの里、夕日の丘、県道沿い桜植樹等の草刈りを実施

事業の成果

- 今年度「希望の丘」にアーモンド、桜、ハナモモを植栽することができた。今後は花桃など他の植樹を進め、園内の遊歩道を花いっぱい整備したい
- 「アサギマダラ園」がテレビ等で報道され、県内各地から観察者訪れ、地域の活性化につながった

活動現場レポート アサギマダラ鑑賞会（10月20日／「アサギマダラ園」「希望の丘」）

- ◆ 旅する蝶と言われている「アサギマダラ」が、外入のアサギマダラ園に多く飛来するようになったと連絡をいただいたので訪れました。
- ◆ この日はお天気もよく、満開のフジバカマにたくさんのアサギマダラが舞い降りていました。平日にも関わらず、次々と見物客が来場されており、ふわりふわりと乱舞するアサギマダラに、時折「すごい」という歓声が聞こえてきました。
- ◆ 会では SNS で情報を発信をされるなどしており、テレビ取材もあった様子。会が設置した手作りの園にはひっきりなしに多くの方が来場されていました。



美しい島の自然を背景に蝶が舞う様子に歓声が上がっていました

団体名 あぶのべっぴん市 (阿武町)

代表者名	小田 千菊	団体の目的
構成員数	9人	・空家や空き店舗を活用し、地域住民のコミュニティの場を提供し、阿武町の活性化につなげる
設立	H30年3月	
問い合わせ先	山口きらめき財団へ	

事業名 あぶのべっぴん市いろいろなぎわい事業

事業の目的 ○手作り品や特産品の展示販売と一緒に、コンサートやワークショップを開催し、子どもから高齢者まで楽しめる活気ある町づくりに寄与する

事業の内容 ○あぶ町まるごとフェスタへの出展
 12月19日(日) / 阿武町町民センター
 通常の市より規模の小さい「べっぴん小市」の開催や、会員が手作りしたもんぺのファッションショー等を実施
 ○第5回あぶのべっぴん市
 3月19日(土) 10:00~16:00 / 河野酒造、阿武町暮らし支援センター等
 会員の手作り品の展示販売、プロカメラマンによる「イエーイ(遺影)」撮影会、ダンスパフォーマンス、コンサート、大型絵本の読み聞かせ、空家内見会、ゲリラライブ、もんぺのファッションショー、お楽しみ抽選会等

事業の成果 ○独居老人や高齢の参加が多く、また町内外からの参加もあり、たくさんの笑顔やふれあいがみられた
 ○多くの出店者の協力が得られ、手作り感あふれる市となった
 ○空家の内見会も兼ねた家じまいイベントを開催できた
 ○今回のイベントで生まれた新たな交流を今後も活かして市を継続したい

活動現場レポート 第5回あぶのべっぴん市 (3月19日 / 河野酒造他)

- ◆ 阿武町奈古の中央通りの酒造店や空家、空き店舗を活用し、クラフトやもんぺなどの手作り品の販売、地域の団体による活動発表、地域の飲食店が連携してのバザー等が行われました。
- ◆ イベントのオープニングは、同じ地域で活動している団体の小学生による創作ダンスパフォーマンスが披露され、その後、大正琴の演奏や読み聞かせ等が行われました。
- ◆ 河野酒造では、色々な部屋や空間を活かして、遺影(イエーイ)撮影会、スライムづくりの体験、パッチワークの展示、マッサージ、石鹸アート等が行われ、多くの人で賑わっており、地域に根差した手作りの温かいイベントとなっていました。



古い酒蔵で行われた手作りイベント

団体名 山口どこでも紙芝居連絡協議会 (山口市)

代表者名	松井 邦昭	団体の目的
構成員数	113人	・住んでよし訪れてよしの魅力ある観光地域づくりを図るため、各地域で取り組んでいる、観光に関する紙芝居の育成と普及・啓発に寄与する
設立	H20年10月	
問い合わせ先	山口きらめき財団へ	

事業名 山口どこでも紙芝居in大殿

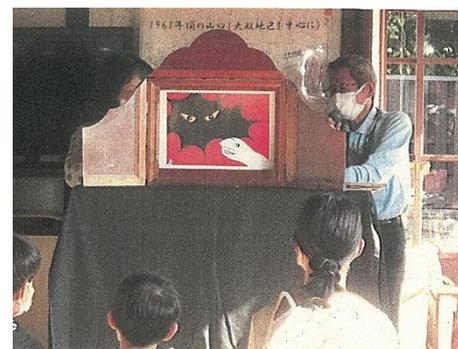
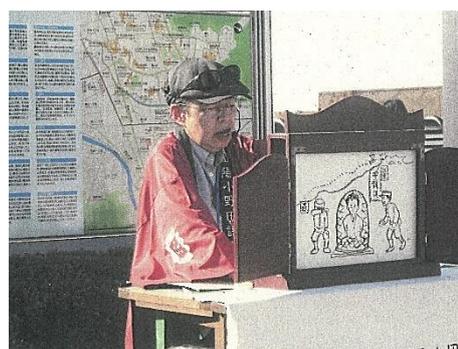
事業の目的 ○紙芝居上演により大殿地域の活性化を目指し、紙芝居関係者の発表、研鑽の場として、関係者の士気の向上と紙芝居の技術向上、伝承を図る

事業の内容 ○山口どこでも紙芝居 in 大殿
11月20日(土)、21日(日) 10:00~15:00 /参加者約1,000人
菜香亭、山口ふるさと伝承センター、十朋亭、萩往還語り部の会案内所にて、「大内塗人形」「へそ曲がり銭平」「源平合戦」「厚狭の寝太郎」等の地域に根ざした昔話や伝承、歴史を題材とした紙芝居を上演

事業の成果 ○紙芝居上演を通して、山口県の魅力を発信し、地域の歴史を楽しんでいただくことができた
○今後、地域に関連した紙芝居を掘り起こし作成していくとともに、様々な市町の団体や行政等から情報を得ながら県内広く積極的に活動を拡げたい

活動現場レポート 山口どこでも紙芝居in大殿 (R3年11月20日/大殿豎小路界限4か所)

- ◆ 山口ゆめ回廊博覧会の一環として実施される「まちなみアート my made 豎小路」と連携し、県内外から参加した紙芝居団体が、それぞれ地域色豊かな紙芝居を上演されました。
- ◆ 広島市で活躍されている阿部頼繁さんが、「日本唯一の市民球団 カープを救った男 石本秀一物語」を上演されました。感情を込めたレベルの高い語りに加え、場面場面では、観客から掛け声をかけていただくなど、会場を巻き込んだ上演に、皆さん熱心に聞き入り、最後は大きな拍手が送られました。
- ◆ 当日は、4会場で紙芝居の上演を行っていたので、3会場以上回ると景品が当たる抽選会に参加できるスタンプラリーも実施され、子どもからお年寄りまで多くの人々が楽しんで盛り上がっていました。



軽妙な語り口で楽しく地域の歴史を紹介

